



市民派・チームみらい  
杉山もとのり

12月議会では、各務山工業団地の基本構想について質問し、高圧線の問題を議論しました。しかし、まともに答弁しない市の姿勢や、まったく答弁しない浅野市長にガッカリしました。

※Youtubeの各務原市議会で検索、ホームページは杉山もとのりで検索

各務山工業用地に77,000ボルトの高圧線

質問. 高圧線の最下部の高さは何メートルか。

答弁. 標高で約70mです。←地上から19mの高さを“標高”と答弁にビックリです。

質問. 高圧線の問題を市民に説明したか。

答弁. 基本構想を作成する上で何ら問題あるとは考えませんので、説明しませんでした。

質問. 高圧線による高さ制限があることを知ったのはいつか。

答弁. 高さ制限があることは計画の段階から把握していました。

※浅野市長や市職員は「高圧線による高さ制限がある土地であること」を知っていましたが、事業を進めることに支障がでるのを恐れたのか、市民や議会に説明をしませんでした。

高圧線により15mの高さ制限

高圧線付近は15mを超える建物は建設できませんし、クレーン作業も15m以下に制限され、電磁波による工場や人への影響も懸念されます。

「高圧線下の土地は地役権が設定されており、取得することは市の規則に違反しないか」、「このような工業用地を買う企業があって、事業の採算がとれるのか」と質問しても、反問権を使って「その質問は土地開発公社の問題です」と、答えようとしませんでした。「土地開発公社の事業は市の一般事務ではないので市は答弁できません」と主張します。

土地開発公社が「隠れみの」

市は工業団地造成を「各務原市土地開発公社」に委託しており、公社の事業に関しては、議会では議論できないと答弁をしません。しかし、土地開発公社は市が100%出資し、副市長が代表で、市の職員が仕事を兼務しており、市には説明責任があります。他市の状況を調べてみると、多くの市で議論ができるようになっており、各務原市ができないのはおかしいです。

各務原市議会のチェック機能向上を

市をチェックするのは市議会の役割ですから、各務山基本構想について、市が正しい情報を伝えなかったことを問題にするべきですが、議会の大会派が市をかばっています。過去には、下水道使用料値上げ、市庁舎の建替えなどの問題で市が説明責任を怠り、情報を正しく伝えようとしませんでした。議会がそういった市の姿勢を見過ごしていることが問題です。私たちは、議会のチェック機能を向上させることが市民の権利を守り、生活を豊かにすることに繋がると考え、皆さんと一緒に議会改革を目指していきます。

人口減少時代を超えていくために、私が推進したいこと。

- ① このまちで出産し子育てがしたいと思う人を増やしていく！  
そのために安心して第二子、第三子が産める保育環境を整える。
  - ② 「子どもの権利」の保障と 保育・幼児教育の質の向上。
  - ③ 子どもも大人も文化的に育つ地域の文化振興！
- この3つのポイントを踏まえ3点について質問致しました！

市民派・チームみらい  
古川あけみ



① 育休退園について

※詳しくは Youtube ご覧ください！

●質問 各務原市の保育園では、親が育休中の場合、特別な事情を除き3歳未満の在園児は退園しなくてははいけません。育休退園の撤廃を目指すべきと考えますが、定員増によって育休退園の解消ができると思いますか？

○市の答弁 現時点では難しいと考えますが、「育休退園の解消」に向けた今後の定員増で、待機児童発生の懸念がなくなれば、3歳未満の在園児の入所を継続していきます。

② 子どもの権利条例について

●質問 地域への愛着や帰属意識の希薄化が進む中、子育ては共に育つという発想が弱まり、子育ては自己責任という考え方が強くなっています。市民の意識調査では『10代20代の「まちへの親しみや愛着がある」は5年前より10ポイント低下。』子どもらしく生きられる環境を整えるために、大人の意識改革、その礎となる「子どもの権利条例」の議論をはじめてはどうか。

○市の答弁 「人権施策推進指針を策定しているので必要ない」

多治見市は、子どもを市の今と未来をつくる、社会の一員とし「子どもの権利条例」を制定。川崎市は、子どもの権利が保障される場所として、常設のプレーパーク「子ども夢パーク」があり、子どもの権利を大切に、まちへの愛着を育んでいます。諦めず、今後も提案し続けます！

③ 地域の文化振興について

●質問 文化は個人の生活や地域の豊かさの実現に必要不可欠なものとし、各務原市文化会館が人と文化の交流拠点となる市民参加型の企画をどう展開していくのか。

○市の答弁 市民や市民団体などが地域の文化振興を目的に、主体的に企画・運営する演奏会や舞台芸能などを公募し、企画者と指定管理者が協働で作り上げる「市民チャレンジ応援企画事業」の実施に向け準備を進めています。



日々の活動は  
ブログ見てね！  
「なないろ通信」  
古川あけみ←検索

制度や仕組みが変わるのを待つなんていられない。そんな思いで、議員活動と共に市民活動を継続しています。夕方の子どもの居場所「まちの保健室」、幼保・小中学校等にて「いのちの授業」を実施。子ども達との日常を大切にしています。